



第40回 立会の新人



会計士受験生のみなさん、こんにちは。受験勉強頑張っているでしょうか。

今回は新人として初めて経験した棚卸立会についてお話しします。

棚卸立会は会社の在庫管理の内部統制の適切性を確認する以外にも、立会を実施して、実際に会社がカウントした商品を監査人が再カウントしてその正確性を確認することで、期末時点の在庫数量の实在性について確認するために重要な手続となっています。

今回実際に立会の現場に行って感じたことは、自分自身が現場に置かれている棚卸対象品を会社の方が見ている中

でカウントするため、とても緊張するということと、在庫の種類によって、カウントしなければならない在庫の数や、在庫の大きさがそれぞれ異なることから、カウントするのにとても時間がかかり、現場の方が普段実施している棚卸の苦勞を知りました。

テストカウント中、自分がカウントした数量と会社のカウントした数量とで相違があり、その結果会社のミスだったということがありました。その際に会社の方からどうするべきか質問がありましたが、あたふたしている自分に対して、一緒に同行してくれた先輩がしっかりとフォローをしてくれて無事に立会を終えることができました。

アーク監査法人では立会の時にしても普段の現場業務にしても、ジュニア一人でクライアントに往査させることがないというのがいいところだなと、この時思いました。

ちなみにこの時は、エラーのあった周辺の在庫についても同じようなカウントミスがないか実際にカウントすることでフォローしていました。

立会自体は1社につき年に1回しか経験することがないので通常なので、次回はもっと勉強してレベルアップして臨みたいと思いました。

みなさんも受験勉強を乗り切って、来年棚卸立会の現場で是非一緒に往査できることを楽しみにしています。頑張ってください！

それでは今後の記事掲載もお楽しみに♪

